

改題

# 土楽たより

どうらく

Kogure 農場 10月号 (NO30)

2012年10月10日 (水) 発行

## 【農暦】<sup>ぼった こうろぎ</sup>飛蝗と興梔の仕業ではないか

○昨日(8日)は寒露である。彼岸を過ぎて暑い日が続いている。10月なのに30度以上の真夏日、東京でも25度以上の夏日が続く。10月で蝉が鳴いていたとラジオで言っていた。寒露を意味する季節ではない。それでも朝晩は肌寒く感じる事で安堵する。私の好きな木犀の香りが微かにして来た。気温が高いので秋を感じられなかったが、秋が意識出来た。剪定ミスだったのか花は僅かしか付けてない。香りもほのかであったが嬉しい。

○日照り続きが、稲刈り時期になって急に激雨で、稲刈りの時期を逸したり、無理して水滴でコンバインドを壊したり、稲穂を駄目にしてしまったりした人がいると聞く。ピッコロファームのメンバーで温床作りをする事になり、稲藁を貰うお願いをしていたが、乾燥するのを待ったり、自分達の都合を調整したりで時が経ち、未だ運び出しが終わっていない。我々の都合に天候が合わせてくれる訳が無い事は承知していても、気候の気紛れには翻弄され作業が予定通り進まない事ではイライラさせられる。気候変動で暦があやしくなり、気紛れは増幅される。蝉が鳴く話があったが、季節感が気候の変調で崩れかかっているのではと思う。



<入道雲? 積乱雲?>最近よく見る少し不気味な雲。発達すると雷、豪雨、竜巻をもたらす。家のベランダから15日撮影

○気候変動は日本に限った事ではない。「昨年のタイの大洪水、<略> この夏は米国で記録的な干ばつ、熱波の発生、インドでもモンスーン期の降雨が不足し干ばつを引き起こす一方で中国では北京が記録的な豪雨に襲われた。長江上流では三峡ダム完成以来の最大規模の洪水が発生した」と経済誌(後述の経済界)に書かれていた。気候の変調はビジネス環境を一変させる。「それへの対応にビジネスチャンスが高まる。」と結んでいた。確かに、気候変動への対応は農業だけの問題ではない。また、ビジネスチャンスや栽培資材・技術の問題だけで語るべきでない。自然へ畏怖の念は忘れてならない。気候の変調は怖い。

○白菜を定植し生育が始まった所で新葉を食べられ9割方無くなった。大根も同じようにかじられ心配で間引きが出来ないでいた。半分位が生育出来ればと思うが未だ判らない。傍で必ず見かける<sup>ぼった こうろぎ</sup>飛蝗と興梔の仕業ではないかと思うが、本当の所は不明である。虫と云えば、ボランティア活動のために鈴虫の飼育している人に傷付きや大きな茄子を届けさせて

貰っているが、虫の音を聞きながら、すすきや野菊を飾り、柿、栗、芋などの秋の味覚を楽しみたいものである。季節感も自然を愛でる心も希薄になっているようで寂しい。作業の手を休め、秋を楽しむ時間を持つのも良いですね。

### 【楽農】草取りはひと段落したが！

<ハウス> ; 草取り (ピッコロファームメンバーで)

<畑 A> ; キュウイ、トマト、茄子、ピーマンなどを  
僅かだが収穫、

<畑 B> ; 黒豆を枝豆として収穫

\*周辺の草取り、物置小屋整理、 耕運機の修理

### 【楽市】イベント交流・直売など

#### ○グリーンジム本戸倶楽部 (9月20-21日)

①、調理トマト、白なす、ジャンボシトウを収穫、選別、包装出荷。(※8-9月は月4回の作業を実施。)

②、トマトを1畝撤収しニンニクの植込みのための整地。30日植込みを実施。

\*懇親会はいつも通りで、今回は田酒(青森の名酒)で美味で直ぐに1升は空いた。毎回野菜と酒は贅沢している。

#### ○吟詠剣詩舞道大会(県西地区)に参加(10月7日)

第30回の節目の大会が開催された。剣舞も吟詠も良いものが多かった。古い文化も良い形で継承されればと思った。



<ワースト5位の手賀沼>1位の汚名返上、環境課題は再度喚起が。寄り道して、5日撮影



<吟詠剣詩舞道大会>県西地区が結城で開催された。7日撮影

### 【つぶやき=Tweet】農業はどうなる？心配！

○最近、離農や水田委託の話をも身近な人から良く聞く。先日のテレビでは稲作中心の農業法人に就職した若者の事をとり挙げていた。日中問題に絡んで国産“日本そば”は、実は原材料は50%以上中国産であると。こんな食材が他にもいっぱいあると云う。つくづく日本の農業は大きな転換期にある事を肌身を感じる事が多い。いろいろな事を見聞きしていると、農業生産法人化が、どの位伸びるかに日本農業は命運が係っているのではと思う。法人化が自給率の上り下がりに関連すると思え程である。失政は農政だけではないが、あれこれ言っている時間的余裕も無くなりつつあるのではと思う。

○そんな時に、私の元会社の友人から“小生にとって、興味分野でなく、、、貴兄の農作業には参考になるかも知れないのでと、手紙付きで「ITで切り拓く農業の特集の経済界10, 2号が郵送されて来た。気にして貰えている事が嬉しい。この本の”日本の農業はITで「儲かる産業」へと脱皮できるか“の中に、最近確認出来なかったデータが含まれていたので紹介する。”現実に産業規模は減り続け、2011年の農業の総産出額は8兆1214億円(私

はおおよそパナソニック1社分の売上と理解していた)で1984年のピーク時から約3割減少、日本の農業就業人口は2012年の概算250万人(この5年間で50万人以上減少)。そのうち150万人が65歳以上で、農家の平均年齢は65、9歳。減少に向かう就業人口を増大させるためには、将来的に多くの新規就農者を受け入れる必要がある。“とあった。特集のタイトルの下には、”将来的な農業就労人口の減少、食料自給率の低下、食の安心・安全へのニーズ、世界的な食料不足などの問題に対応するため、農業生産および農業経営を効率化し、農業を「儲かる産業」にすることが求められている。“と書かれていた。具体的には、如何に切り拓くか(慶大・千葉大)、富士通、NEC、NTT関連などの大手ITやイオングループなどの取り組みが紹介されていた。

○いつもの笠間柏往來の車中でのラジオで、橋下大阪市長(の八策など)を激しく批判をしていて誤りがあったら職を辞するとまで言う京大教授の藤井聡の話に興味を覚えた。話題にあった「日本破滅論」(文春新書)を購入し読んだ。「この国の政治、経済、社会に危機をもたらしたものは何か。構造改革(\*問題

多い小泉改革)、デフレ下の増税、自由貿易至上主義(\*TPP)、ポピュリズム(\*大衆【迎合】主義、野田首相が使う)、..、その根本にある日本の病理を気鋭の論客二人がめぐりだす。」とカバーに書かれていた。現在の状況認識は非常に共感出来るものであった。藤井さんの著書に「公共事業が日本を救う」、「列島強靱化論」があるが読んでいない。題名から列島改造論が想像され、この辺については?がある。「日本破滅論」で語られていることは、農業問題の基礎条件の理解にも繋がるので一読をお勧めしたい。

○農業を「儲かる産業」にとあったが、浅見な私は、農業には2つの方向があると思っている。一方の大きな柱はやはり「儲かる産業」にある。もう1つは「儲からなくても成り立ち役に立つ農業(=年金併用、環境、社会貢献など意味付与が必須なるが)」である。地産地消や棲み分けで、グローバル、ミドルローカル、ローカルの区分けもあったほうがいい。超零細農業もありと思う。いずれにしても“農地を如何に管理し活用”出来るかが(農政の)鍵になると思う。正しく現状を見据えるには太閤検地ならぬ“平成の検地”が必要ではと思う。仲間とやっている“ピッコロファームの会”も社会制度的に位置づけられる事になればと夢見ている。引用多用を多謝。

\*筆者注。

**【後記】**すすきと野菊を飾り、秋の味覚を楽しみましょう。笠間に、kogure農場にお越し下さい。

【特に編集せずランダムな構成にします】



<孫娘の運動会> “いい顔がいっぱい”。父母も爺婆も大勢で。29日撮影

発行者; Kogure農場・小暮虎雄

住所; 笠間市本戸4201-10

携帯電話; 090-9333-4135

メール; torao-k@nifty.ne.jp

HP; <http://homepage3.nifty.com/toragigi/>